

【資料 5】

立地適正化計画

分析データ（例 2）

【地区の現状】

6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】②

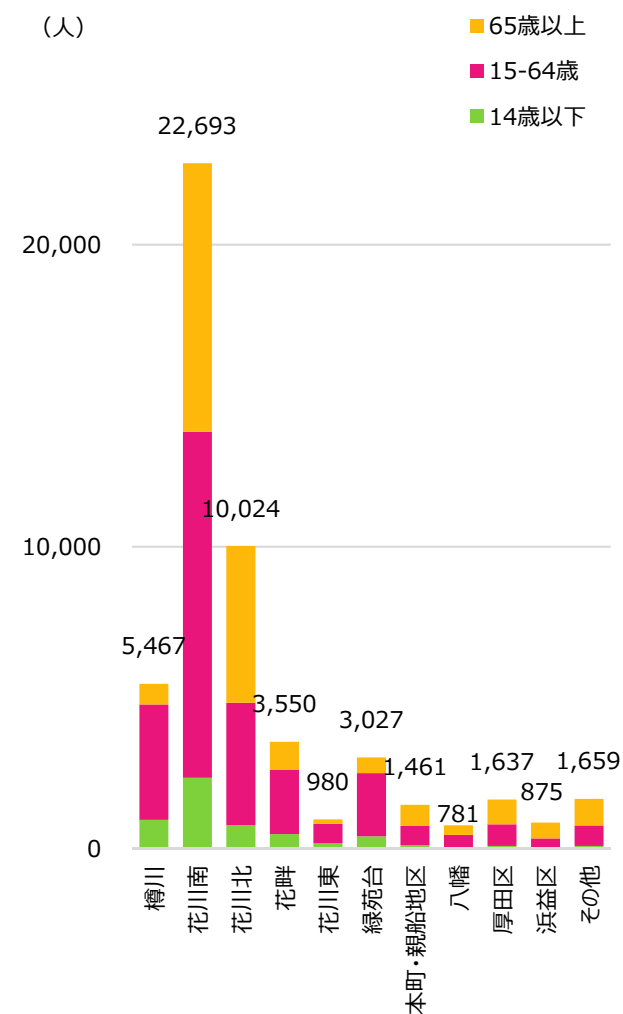
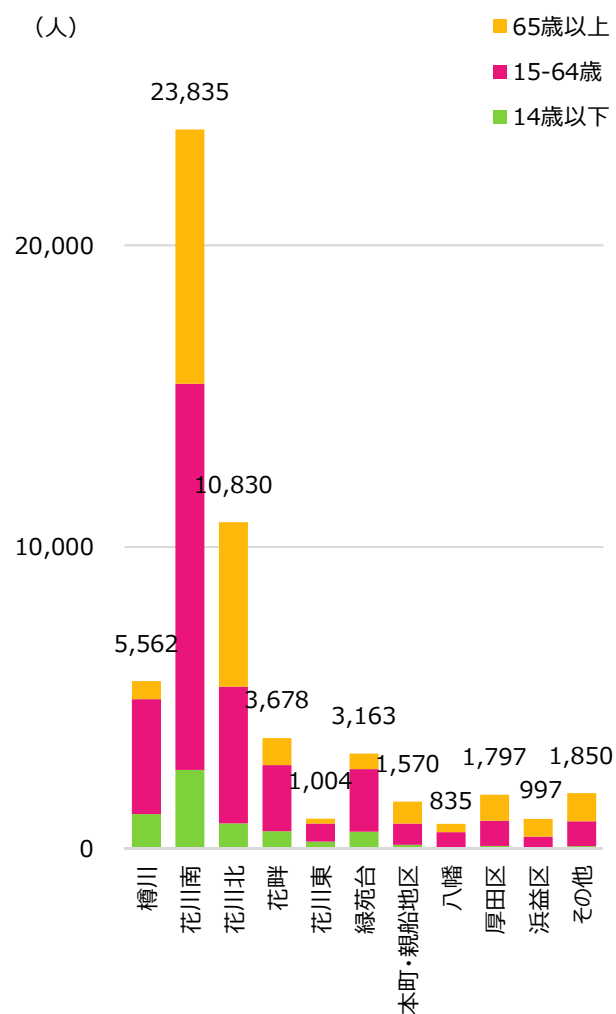
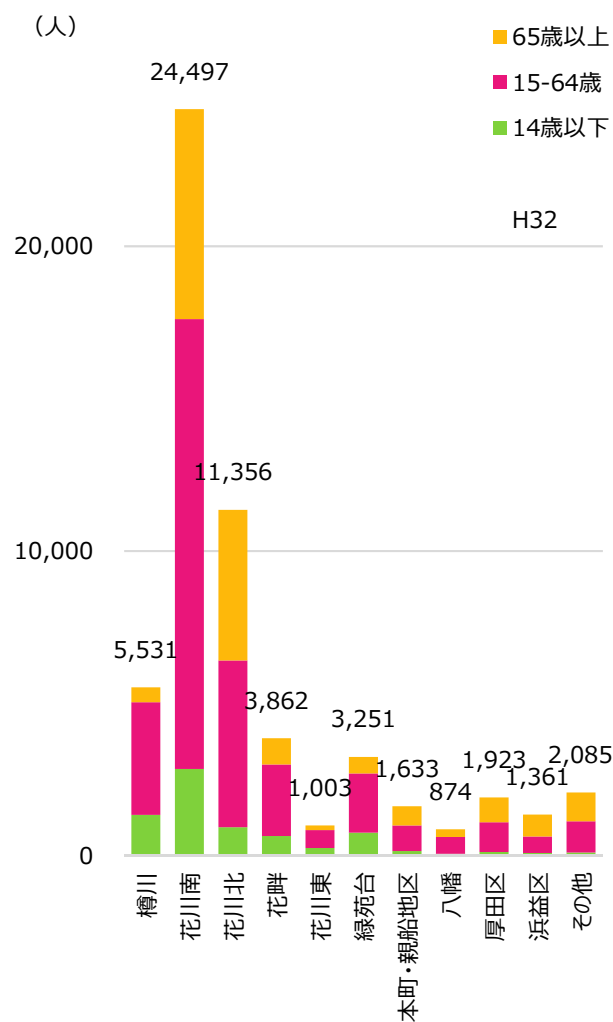
将来人口

※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩市域の市街化区域外人口です。

【H27（2015）】 57,376人

【H32（2020）】 55,121人

【H37（2025）】 52,154人



資料：平成27（2015）年国勢調査
 国立社会保障・人口問題研究所
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

6.地区別の将来人口【H27(2015)国調ベース】③

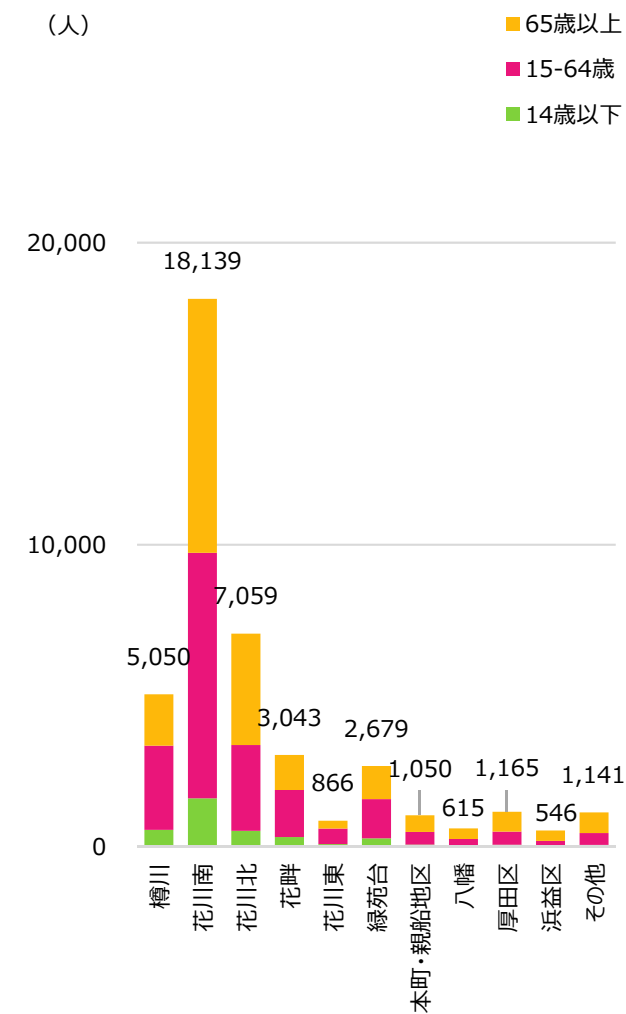
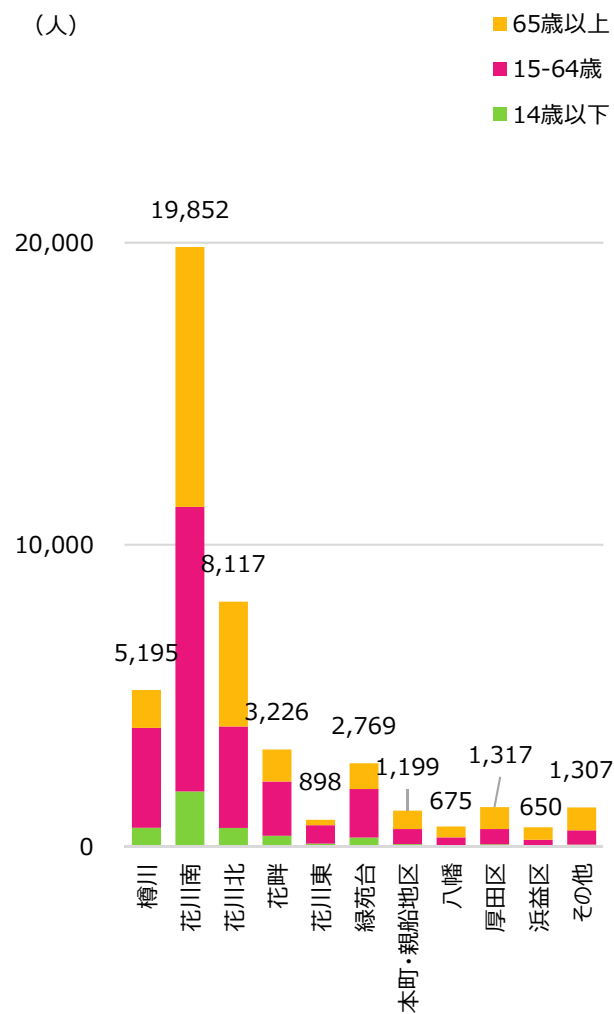
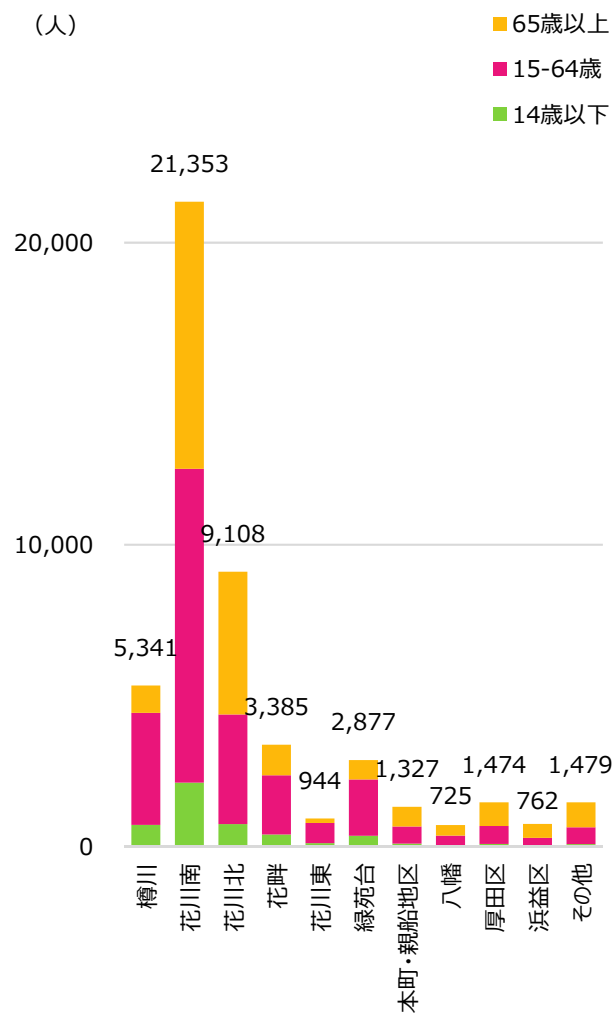
将来人口

※ 樽川・八幡地区については、市街化区域内の人口であり、その他については、旧石狩市域の市街化区域外人口です。

【H42（2030）】 48,775人

【H47（2035）】 45,205人

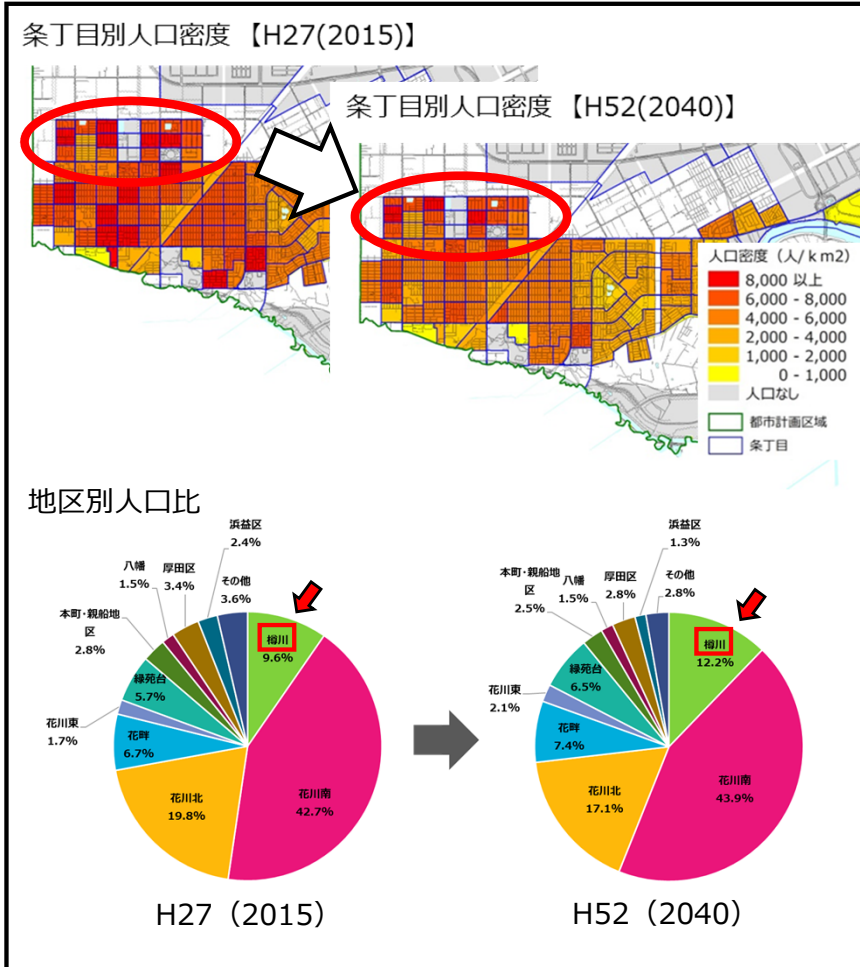
【H52（2040）】 41,353人



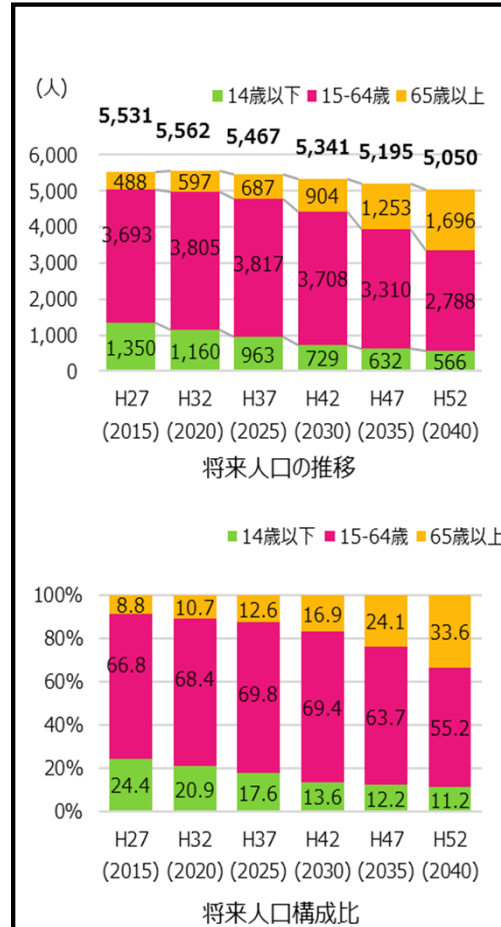
資料：平成27（2015）年国勢調査
 国立社会保障・人口問題研究所
 「日本の地域別将来推計人口（平成30（2018）年推計）」

1.樽川地区

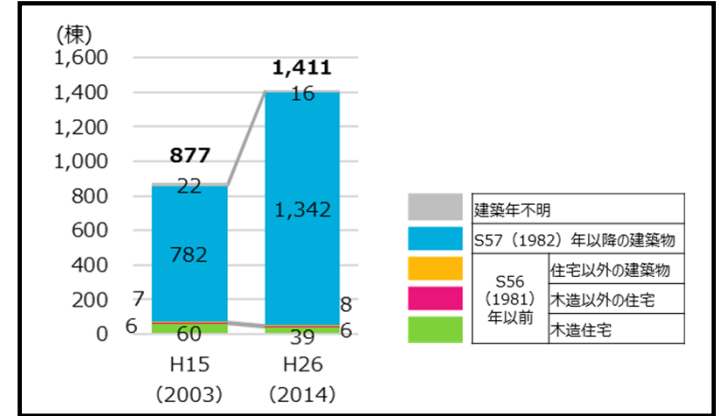
①人口密度と地区別人口比



②将来人口と人口構成比

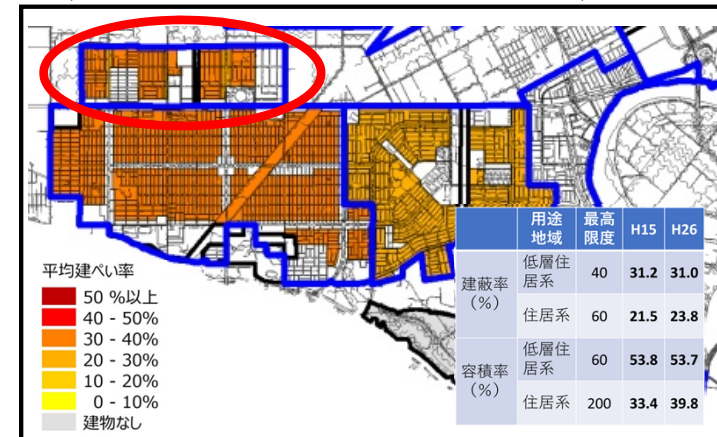


③建築棟数



④平均建蔽率・容積率

(図はH26低層住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減

将来人口：H27⇒H52で約▲480人 (▲8.7%)

将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は約半分となり、65歳以上は約4倍

建築棟数：H15⇒H26で530棟増加でほぼ昭和57年以降の新耐震建築物

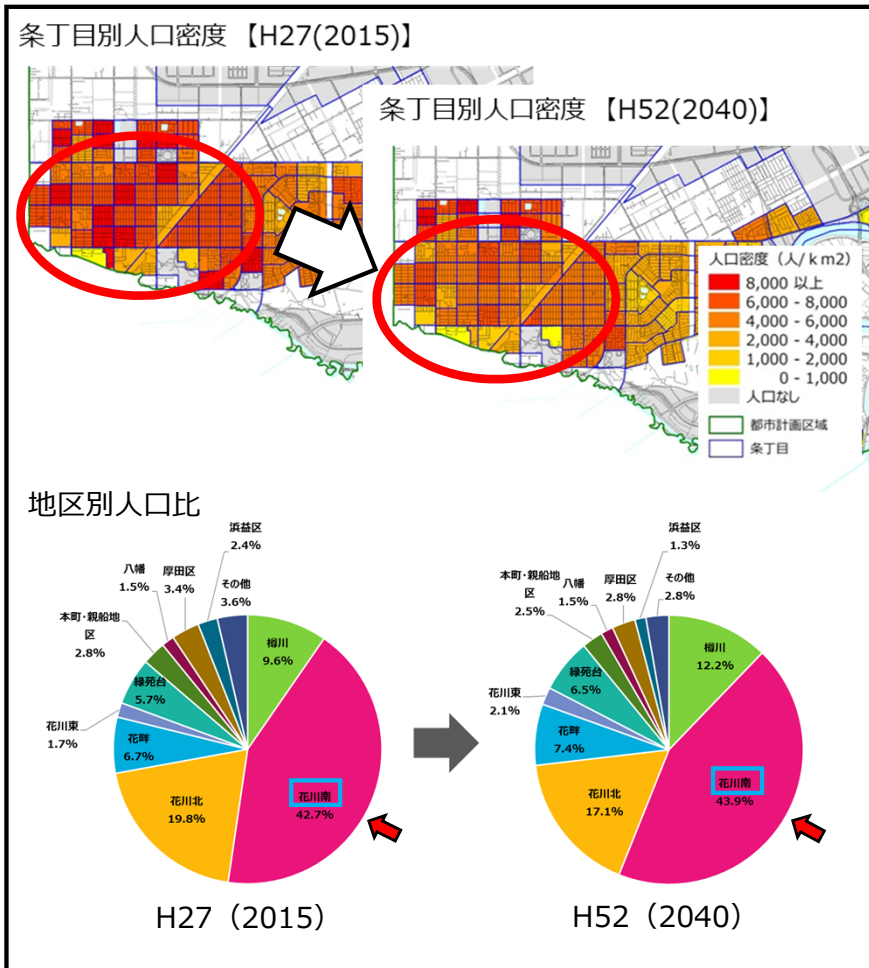
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が微増

地区別人口比：H27 (9.6%) ⇒H52 (12.2%) で2.6%上昇

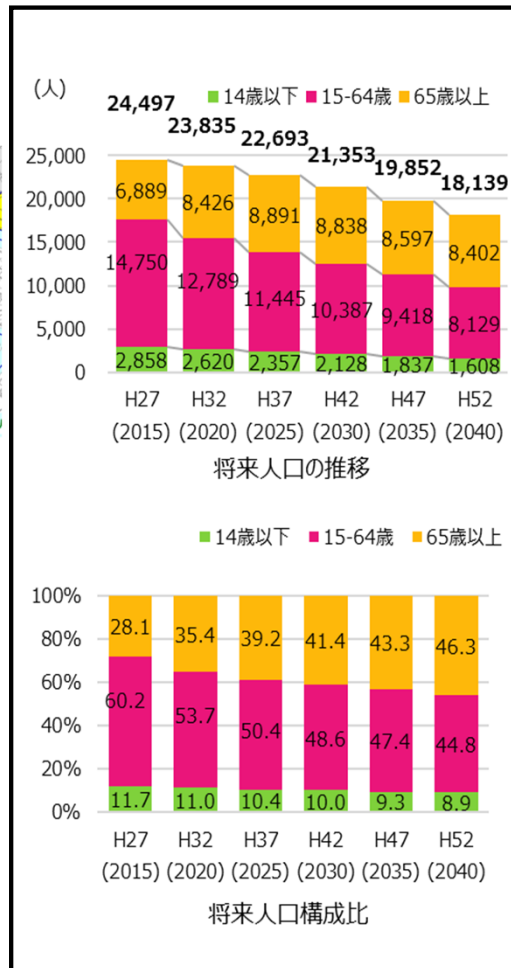
15-64歳はH52において急減

2.花川南地区

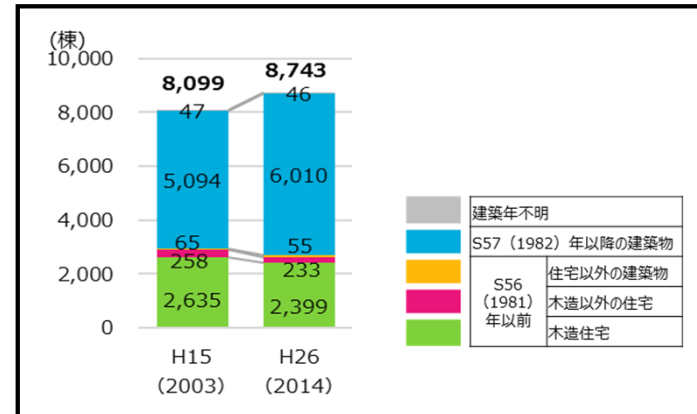
①人口密度と地区別人口比



②将来人口と人口構成比

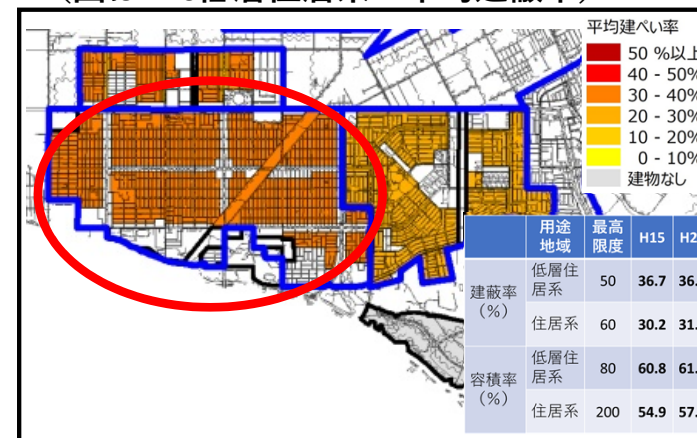


③建築棟数



④平均建蔽率・容積率

(図はH26低層住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減

地区別人口比：H27 (42.7%) ⇒H52 (43.9%) で市内の人口の4割強を占める

将来人口：H27⇒H52で約▲6,300人 (▲26.0%)

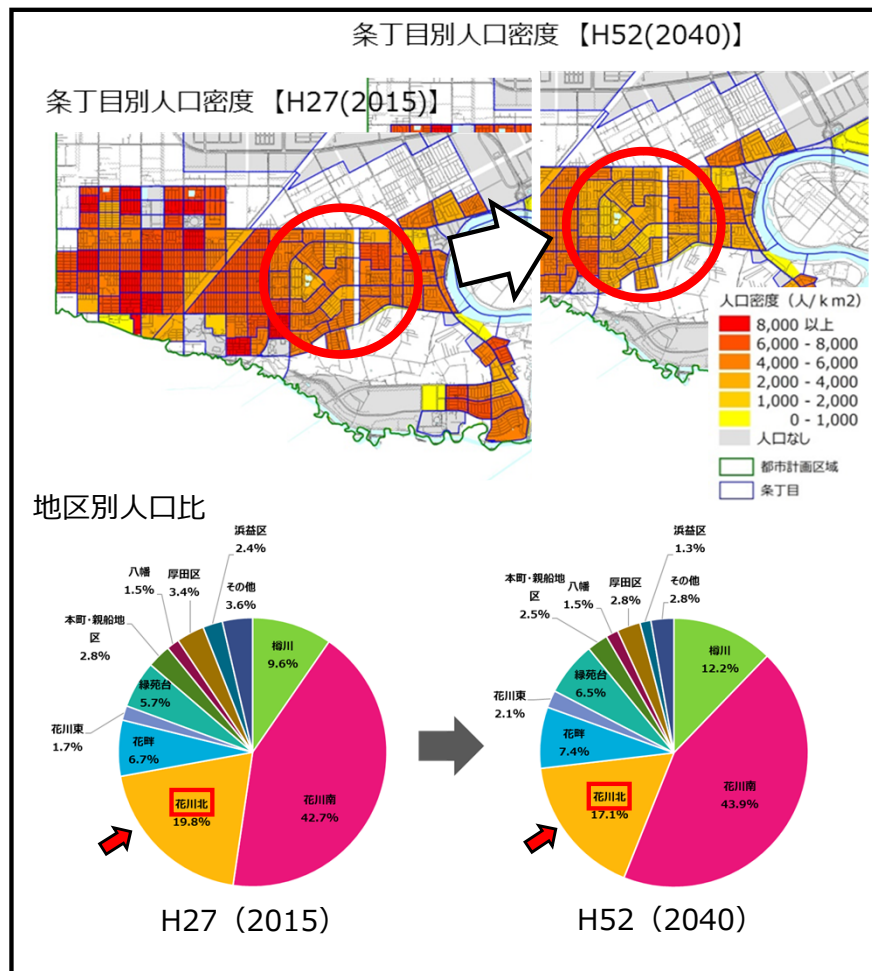
将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は微減、15-64歳は減少し、65歳以上は約1.6倍

建築棟数：H15⇒H26で約640棟増加で昭和57年以降の新耐震建築物への移行が進んでいる

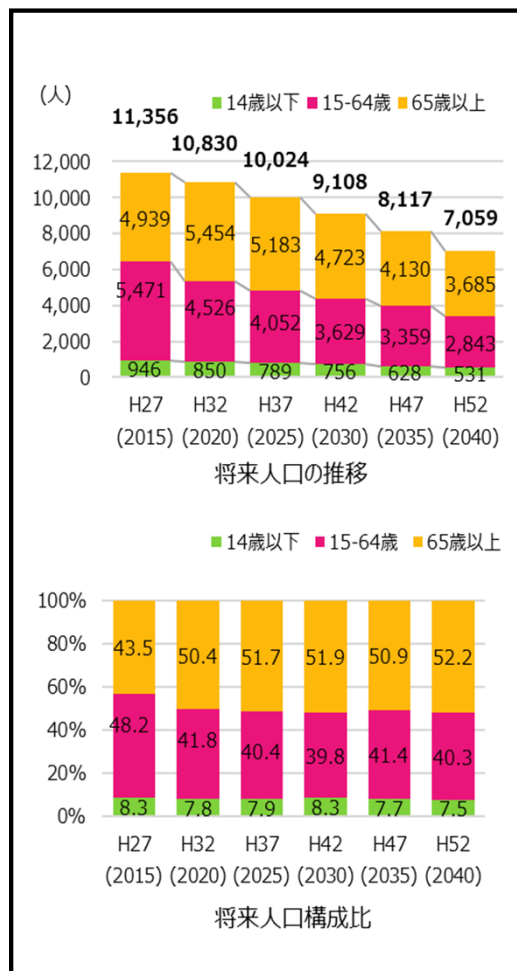
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で住居系用途地域で微増

3.花川北地区

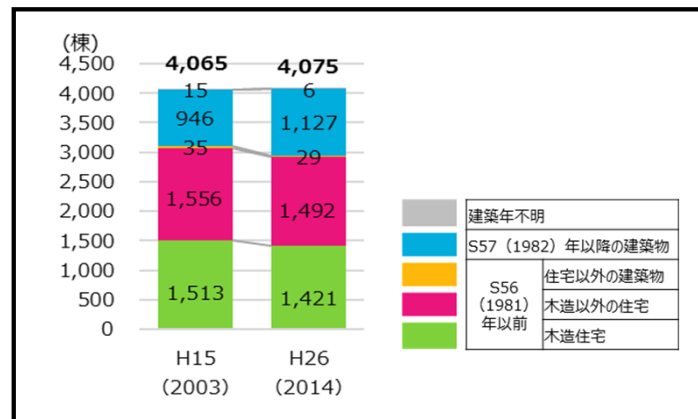
①人口密度と地区別人口比



②将来人口と人口構成比

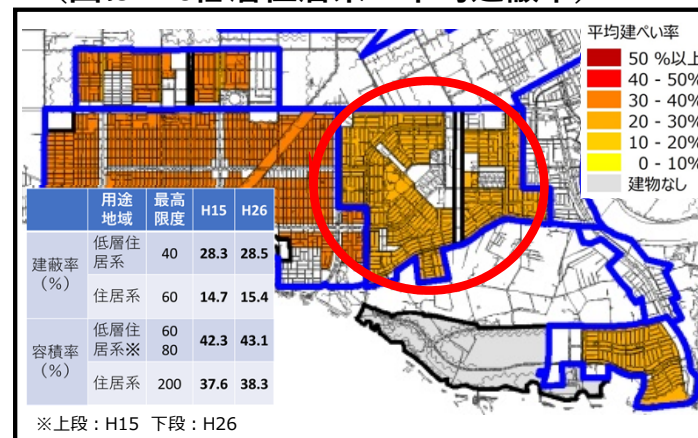


③建築棟数



④平均建蔽率・容積率

(図はH26低層住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減

地区別人口比：H27 (19.8%) ⇒H52 (17.1%) で減少予測だが市内における人口割合は以前高い

将来人口：H27⇒H52で約▲4,297人 (▲37.8%)

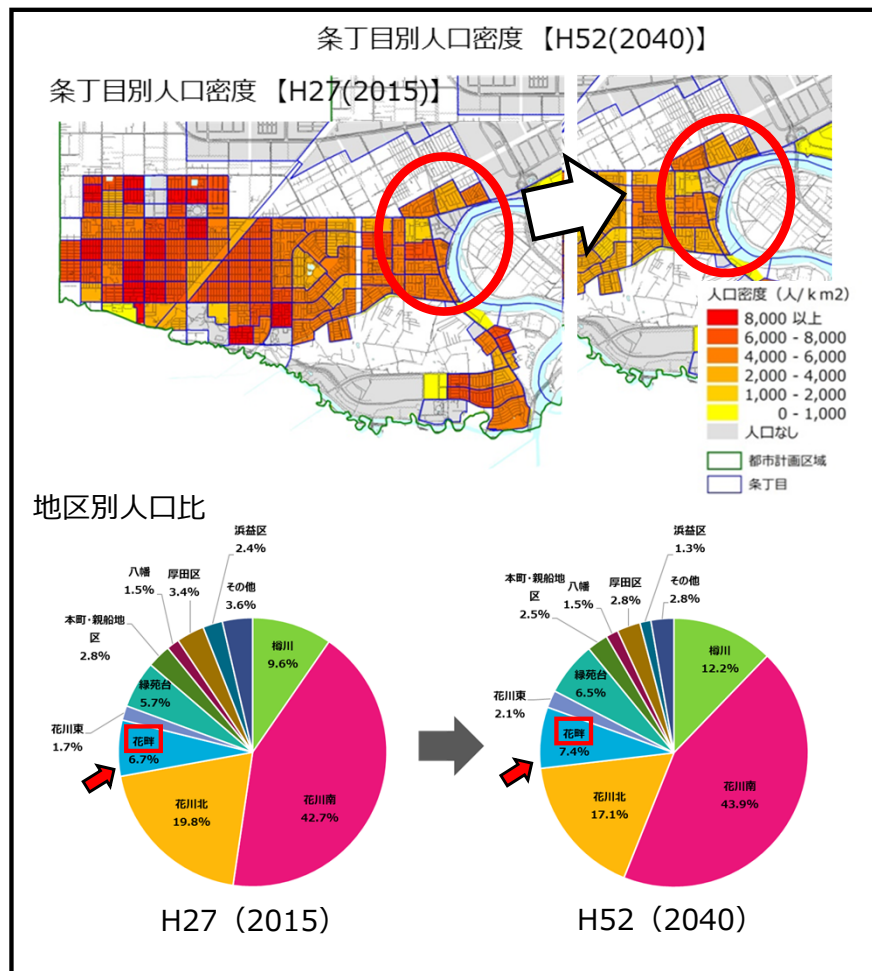
将来人口構成比：H27⇒H52で15-64歳、65歳以上に多少の変化が見られる程度でほぼ同じ割合

建築棟数：H15⇒H26でほぼ同数、昭和56年以前の木造住宅 (旧耐震) は微減

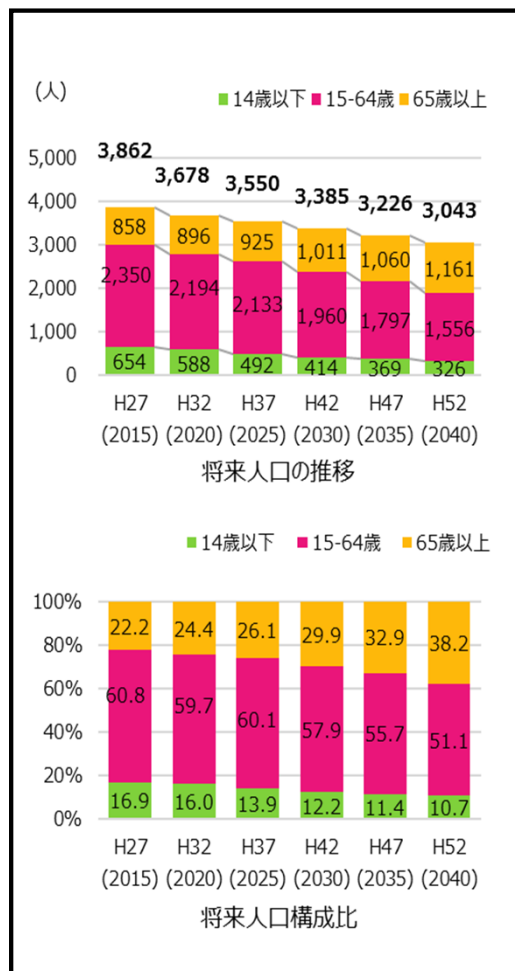
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が微増

4.花畔地区

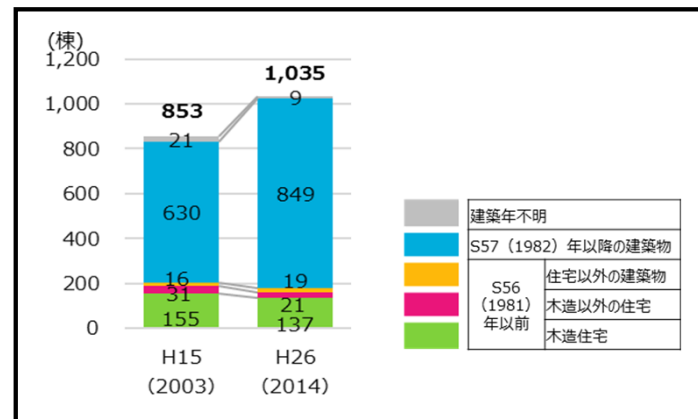
①人口密度と地区別人口比



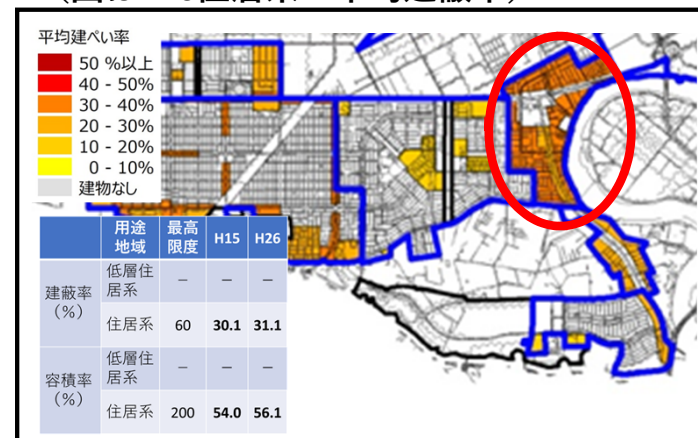
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減

将来人口：H27⇒H52で約▲820人 (▲21.2%)

将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下、15-64歳は減少し、65歳以上は約1.7倍

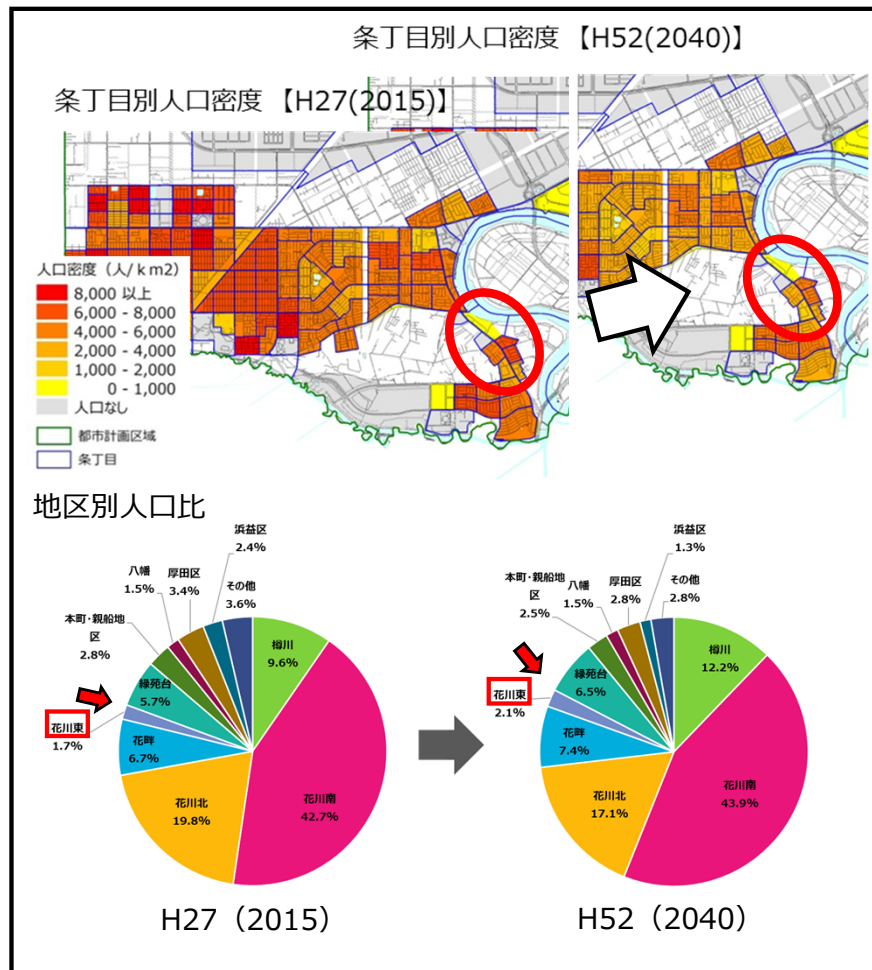
建築棟数：H15⇒H26で約180棟増加で、昭和57年以降の新耐震建築物の割合が高い

平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が増加

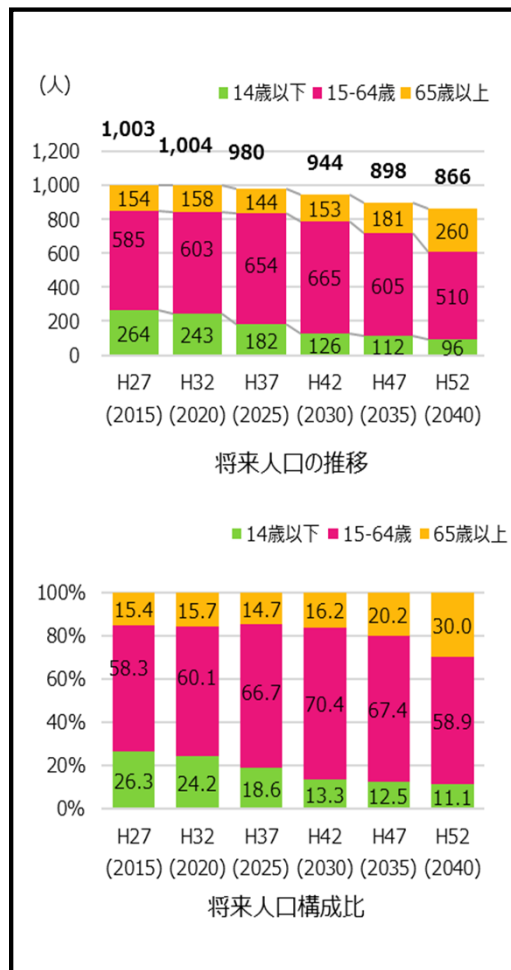
地区別人口比：H27 (6.7%) ⇒H52 (7.4%) で微増

5.花川東地区

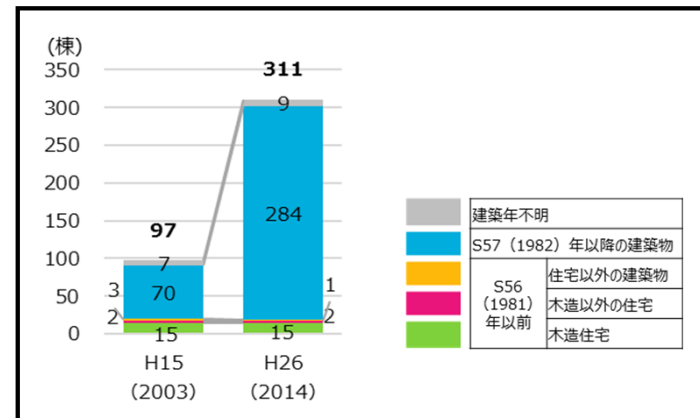
①人口密度と地区別人口比



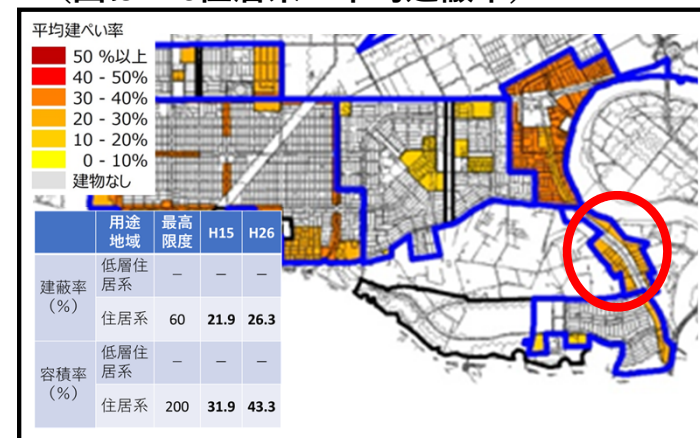
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減

地区別人口比：H27 (1.7%) ⇒H52 (2.1%) で微増

将来人口：H27⇒H52で約▲140人 (▲13.7%)

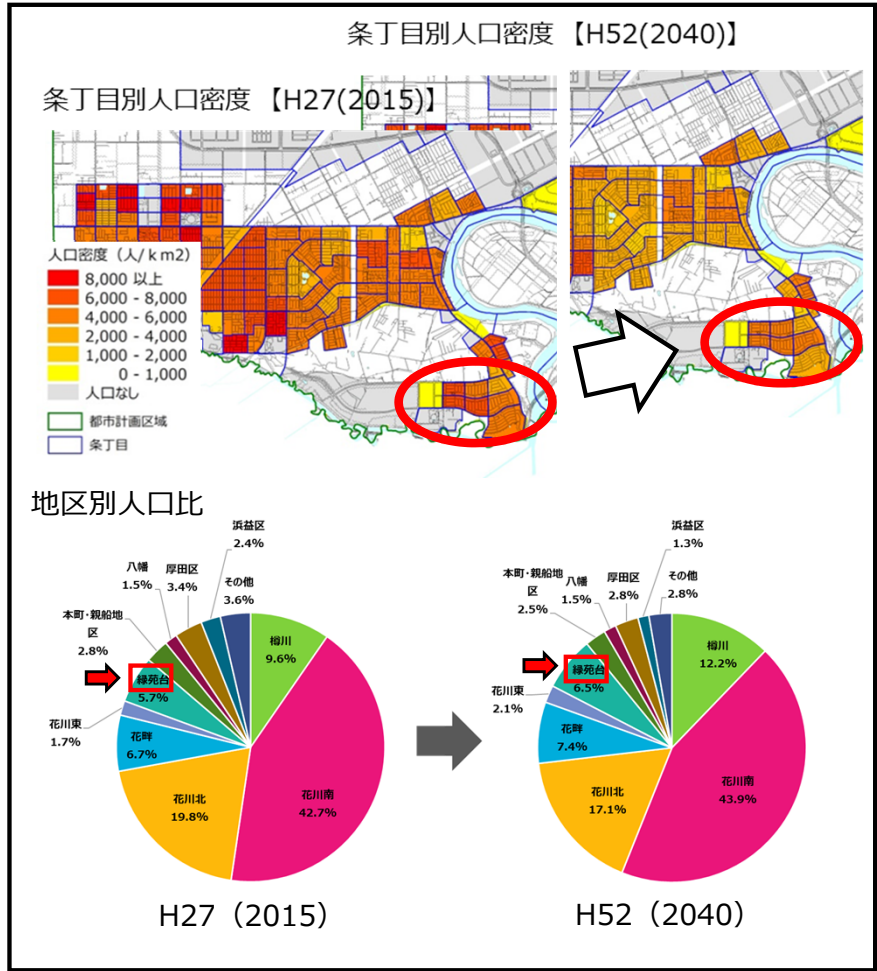
将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は約半分となり、65歳以上は約2倍、15-64歳はH42まで伸びる予測

建築棟数：H15⇒H26で約210棟増加で急増、ほぼ昭和57年以降の新耐震建築物

平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で平均容積率が増加

6.緑苑台地区

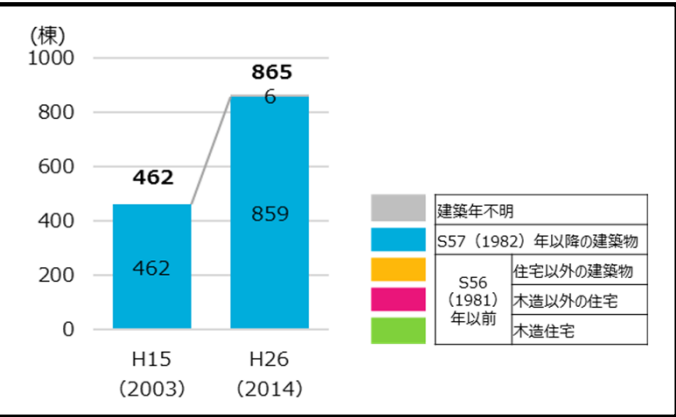
①人口密度と地区別人口比



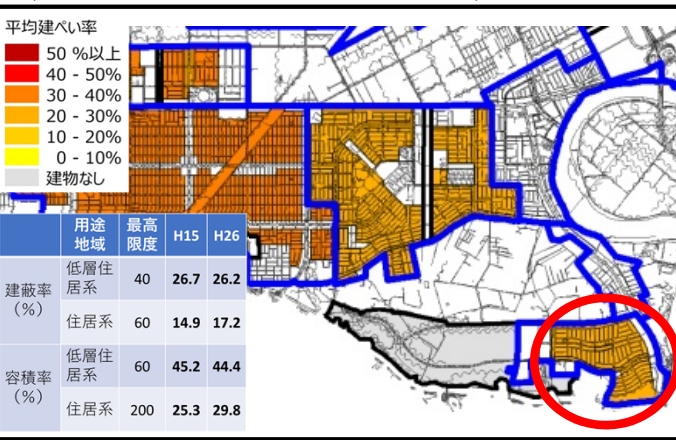
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減

将来人口：H27⇒H52で約▲570人 (▲17.6%)

将来人口構成比：H27⇒H52で14歳以下は約半分となり、65歳以上は約2.5倍

建築棟数：H15⇒H26で約860棟増加で昭和57年以降の新耐震建築物

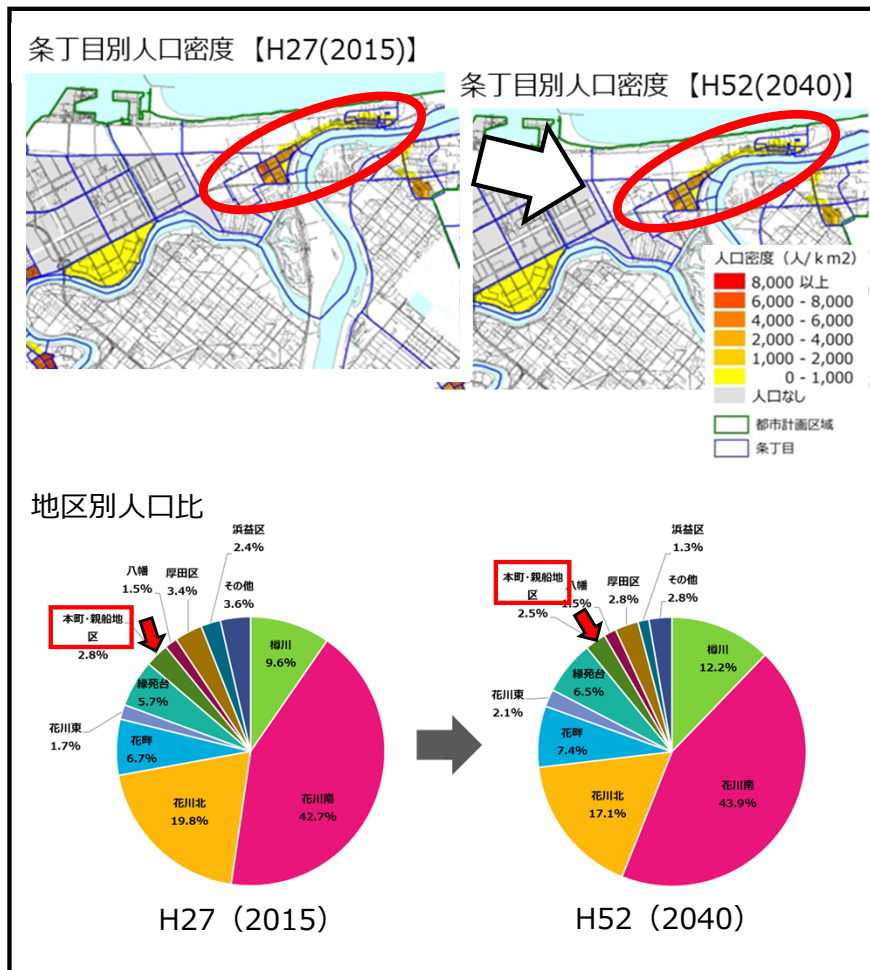
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26で住居系用途地域で増加

地区別人口比：H27 (5.7%) ⇒H52 (6.5%) で微増

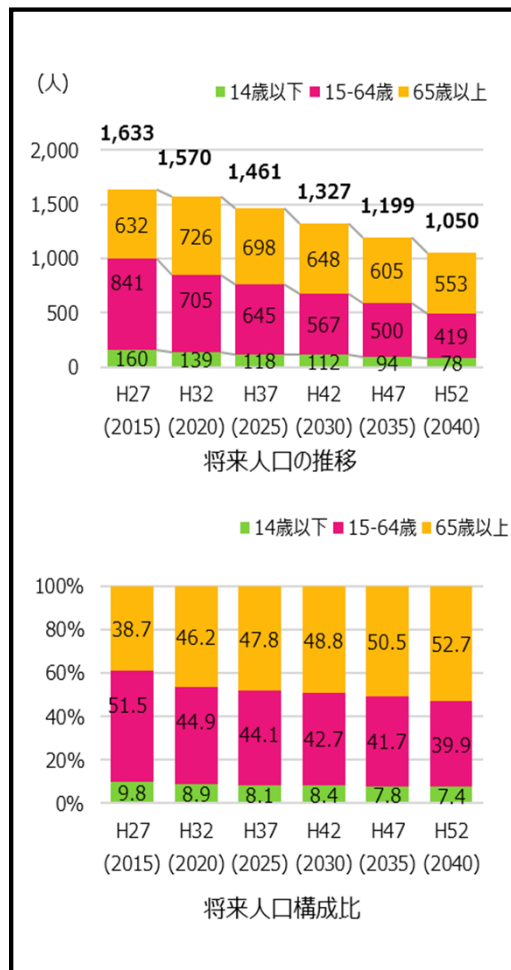
15-64歳はH37をピークに減少

7.本町・親船地区

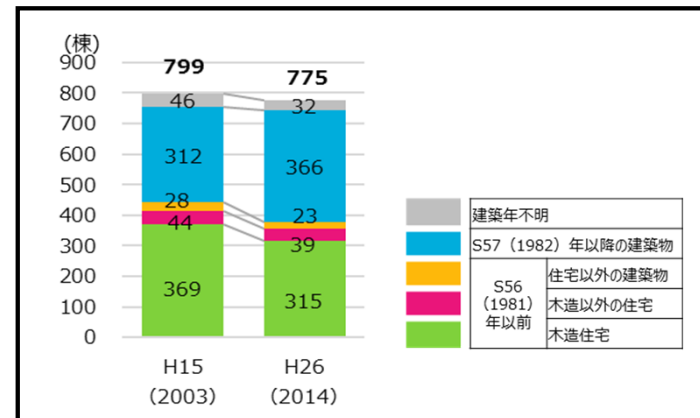
①人口密度と地区別人口比



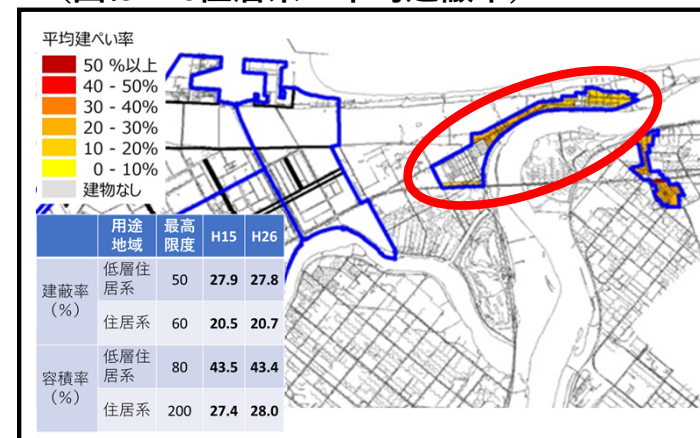
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で一部の地区が微減

将来人口：H27⇒H52で約▲580人 (▲35.7%)

将来人口構成比：H27⇒H52で15-64歳は減少し、65歳以上が占める割合が過半を占める予測

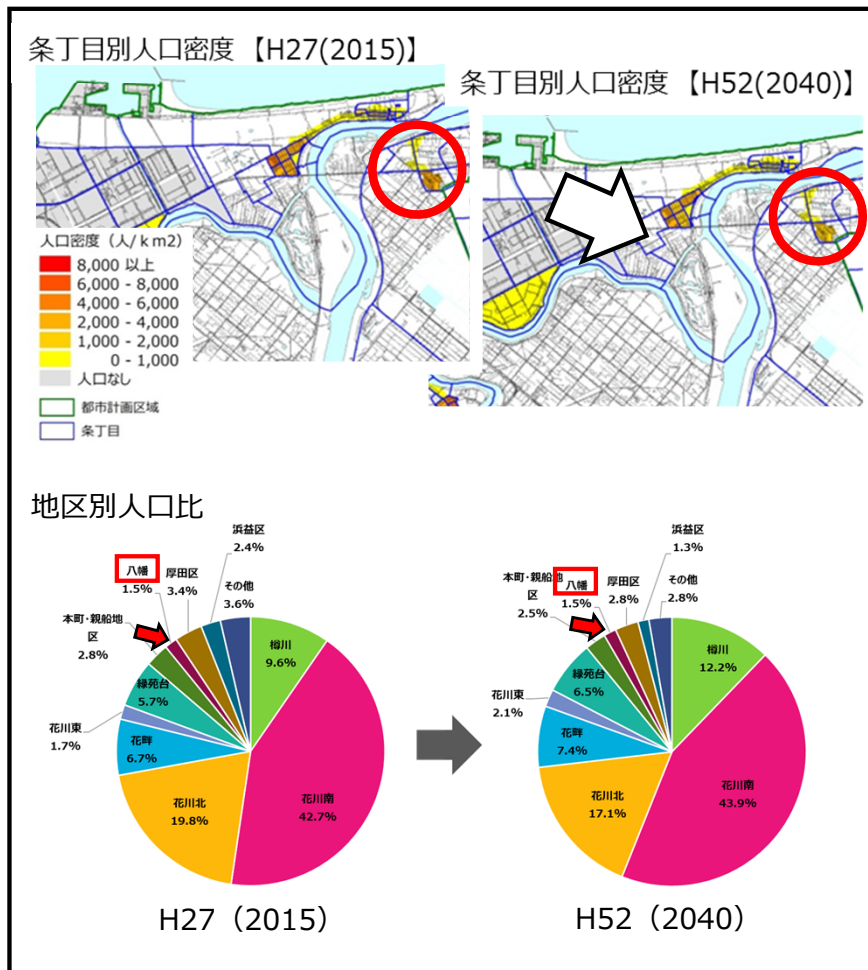
建築棟数：H15⇒H26で微減、昭和56年以前の木造住宅 (旧耐震) も見受けられる

平均建蔽率・容積率：H15⇒H26でほぼ変化なし

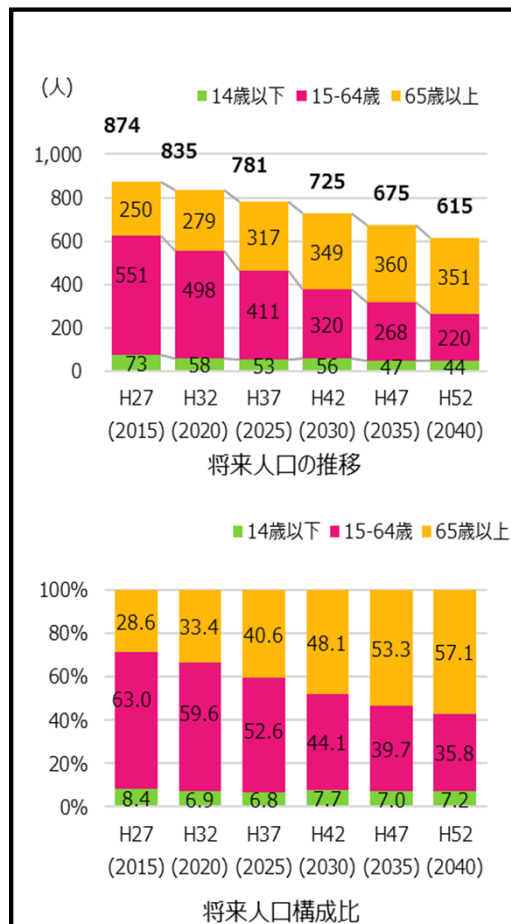
地区別人口比：H27 (2.8%) ⇒H52 (2.5%) ほぼ同じ割合

8.八幡地区

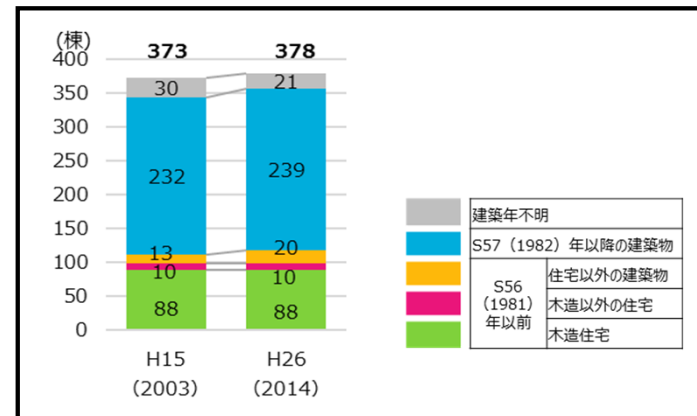
①人口密度と地区別人口比



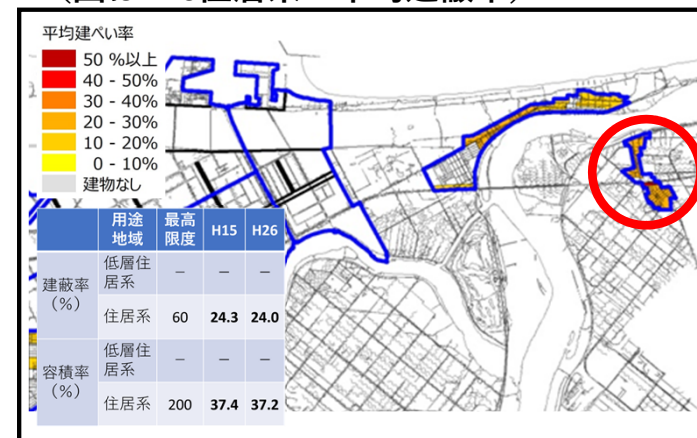
②将来人口と人口構成比



③建築棟数



④平均建蔽率・容積率 (図はH26住居系の平均建蔽率)



⑤地区の状況

人口密度：H27⇒H52で全体的に微減
将来人口：H27⇒H52で約▲260人 (▲29.6%)
将来人口構成比：H27⇒H52で15-64歳は半分近く減少し、65歳以上は約2倍
建築棟数：H15⇒H26でほぼ同棟、割合は少ないものの昭和56年以前の木造住宅 (旧耐震) も見受けられる
平均建蔽率・容積率：H15⇒H26でほぼ変化なし